

愛媛県の皆様へ

愛媛県の皆様の多大なるご支援により実現しました今年度の修学旅行は、大変思い出深いものとなりました。愛媛県の皆様が、私たちの修学旅行の実現に向けて、日程の計画から当日の対応にいたるまで、私たちのことを考えくださっているということが切々と伝わってきて、その感慨も一入でした。皆様からいただきました「おもてなしの心」に、深く感謝申し上げます。

愛媛県に到着した際の松山空港での、寒い中、飛行機の着陸地点から空港の出口まで、横断幕まで作成していただいたANAの社員の皆様の出迎え、その時から愛媛県に来て良かったという気持ちが溢れていました。

一日目に訪問した愛媛県庁では、中村知事にお会いすることができて嬉しかったです。偶然にもこの日が中村知事のお誕生日で、僭越ながら一緒にお祝いできまして大変光栄でした。そして、この修学旅行ができるきっかけを作ってくくださったことに改めて感謝申し上げます。歓談では、私たちの質問に丁寧に答えていただき、愛媛県への興味が高まり、修学旅行での楽しみが一段と増えました。また、記念品「愛顔のおもてなし」を頂戴しまして、ありがとうございます。さらに、愛媛県庁の歴史的価値のある建物を拝見させていただき、貴重な体験となりました。

二日目に訪問した西予市では、卯之町の町並み散策や開明学校での明治時代の授業体験、宇和民具館の見学、宇和米博物館での雑巾がけレース体験、明浜地区でのみかん狩り体験など楽しい時間を過ごすことができました。伝統ある歴史と文化の継承を体感できました。雑巾がけレースは、思った以上に疲れましたがおもしろかったです。みかん狩りでは、新鮮なポンカンを自分の手で取ることができ、農家の方が大切に育てられたものであることを考えながら、おいしそうなものを選ぶ醍醐味が感じられました。また、昼食ではご当地名物のじゃこ天やかま揚げちりめん丼、ちりめんスープなどを用意していただき、大変おいしくいただきました。私たちは浜っ子ですので、海の幸が大好きです。できたて熱々を口にすることができて感激でした。

そして、二日目には八幡浜高校を訪れ、生徒の皆さんとの交流があったのですが、これが大変素晴らしい交流会となりました。部活動の発表は、どれも完成度が高く、目を見張るものばかりでした。モザイクアートで作成された双葉高校の校舎が現れたとき、胸が熱くなりました。グループごとに分かれての歓談や〇×クイズを通して、八幡浜高校生との距離がぐっと近くなったような気がしました。一緒に歌った歌声、今も心の中に響いています。記念品としていただいた数々の品と色紙に書かれたメッセージ、大きな励みとなりました。これだけの交流会を実施するには、準備も大変だったのではないかと思います。心があたたかくなる交流会を実施していただき、ありがとうございます。本校が記念として贈らせていただいた梅檀の木が育つように、両校の絆が大きくなってくれたらと思います。

三日目に行なった、松山北高校の皆さんとの・ボール野球体験と松山市内の探索では、生徒の皆さんとの会話を楽しみながら歴史にふれることができました。秋山兄弟生誕地では詳しい説明をお聞きすることができましたし、坂の上の雲ミュージアムでは、充実した展示資料を拝見することができ、とても勉強になりました。悩みながらも明治時代の近代国家を支えようと尽力した秋山兄弟と正岡子規の気概を私たちも見習おうと思いました。生徒の皆さんとは、普段の学校生活などについてもお互いに話し、同じ高校二年生として共感できることや羨ましいことがたくさんありました。貴重な時間を割いて私たちと行動を共にしてくださったこと、感謝しております。このような機会が再びあることを願っています。

また、三日目には坊つちゃん劇場でミュージカル「誓いのコイン」を鑑賞させていただきました。ミュージカルの迫力が伝わってきましたし、内容はもちろん、吉田葵さんから最後にいただいた応援のメッセージ、感動しました。キャストの皆様との写真撮影もしていただき、とても記念に残るものとなりました。

四日目に拝観した松山城は、その勇姿に圧倒させられました。天守閣最上階からの眺めは絶景で、360度の眺望に瀬戸内海まで見渡せ、当時の城主に思いを馳せました。また、寒さと相まって正岡子規の「松山の城を見おろす寒さかな」という句が浮かんできました。名城というのにふさわしい松山城を後にして見学した坂の上の雲スペシャルドラマ館では、ドラマの名場面の写真や衣装、小道具などが魅力的に展示され、ドラマで放映された場面が一気によみがえってきました。ドラマの世界を肌で感じる事ができた空間でした。

修学旅行中、私たちを案内してくださった瀬戸内運輸株式会社の皆様、おいしい食事と快適な宿を提供してくださったホテル椿館別館の皆様、丁寧な対応をしてくださった道後商店街振興組合の皆様、福島県にはない路面電車の乗車に協力をいただきました伊予鉄道株式会社の皆様、そして今回の修学旅行を担当してくださった愛媛県観光課の栗田様、大変お世話になりました。皆様のお力のおかげで、充実した修学旅行を実現することができました。

愛媛県を旅立つ日、後ろ髪引かれる思いでいっぱいでした。四日間という短い期間でしたが、その間に今回の修学旅行に関わってくださった方々から私たちが得たものは、どれもかけがえのないものばかりでした。皆様からいただいた「おもてなしの心」、決して忘れません。福島県は困難に立ち向かいながらも復興へと踏みだしています。その中で私たちにもできることがたくさんあります。正岡子規も「生きている限り人間はすべてを奪われることはない」と言っています。秋山兄弟や正岡子規のように希望の光を信じて、この修学旅行での思い出を糧に、前を向いて生きていこうと思います。

愛媛県の皆様、本当にありがとうございました。

平成24年1月31日

福島県立双葉高等学校 第二学年生徒一同